

2021年6月13日

NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ
会員各位

NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ
代表理事 増田 純一

2021 年度通常総会のご案内

会員の皆様におかれましては、日頃からかわごえ里山イニシアチブにご理解と精力的な活動に感謝いたします。

さて、NPO 法人かわごえ里山イニシアチブでは、2021 年度通常総会を下記の要領で開催いたします。

開催日は、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の期間中につき、大変恐縮ですがご出席は極力お控えいただき、委任状による表決の委任にご協力をお願いいたします。

また、午後に予定していました「みんなでつくる田んぼセミナー」は延期とさせていただきます。

尚、会場にご参加の方は、マスク着用、事前の体温測定をお願いいたします。

また、ウエスタ川越規定により、当日会場参加の皆様には、体温などを記載した名簿を提出することになりますのでご協力ください。

記

日 時 2021 年 6 月 20 日(日)10:30~11:30
開催場所 ウエスタ川越会議室1(川越市新宿町1丁目17番地17)
参加要領 ウエスタ川越会議室1での参加、または、委任状

(できるだけ委任状による表決の委任にご協力願います。)

総会の模様は ZOOM により視聴できるようにします。視聴希望の方はその旨、6 月 18 日(金)までに hatsukarinosato@googlegroups.com にお知らせください。

但し、回線状況により視聴できない場合もありますのでご了承ください。

総 会 次 第

- 1 開 会
- 2 代表理事挨拶
- 3 議長及び議事録署名人の選出
- 4 議 事

審議事項

- 議案第 1 号 2020 年度事業報告
- 議案第 2 号 2020 年度決算報告(活動計算書)
2020 年度会計監査報告
- 議案第 3 号 役員改選について

報告事項

- 2021 年度事業計画
- 2021 年度活動予算

- 5 その他
- 6 閉 会

2021年度
NPO法人 かわごえ里山イニシアチブ
通常総会 資料

日時 2021年6月20日(日)午前10時30開会

場所 ウェスタ川越会議室1

総 会 次 第

- 1 開 会
- 2 代表理事挨拶
- 3 議長及び議事録署名人の選出
- 4 議 事

審議事項

議案第1号 2020年度事業報告

議案第2号 2020年度決算報告

2020年度監査報告

議案第3号 役員改選について

報告事項

2021年度事業計画

2021年度活動予算

- 5 そ の 他
- 6 閉 会

2020 年度活動報告

～稲作・マコモ文化の継承と、人々が結びつく豊かな地域づくりを目指して～

【1】はじめに(活動概要)

私たちがかわごえ里山イニシアチブは、住宅地と田畑が連なる川越市北部郊外において、人と環境にやさしい田んぼ活動を中心として、都市近郊型の里山田園環境の保全・創造と、地域の人々の暮らしに調和した有機的な地域づくりを目標に活動しています。

2020 年度で 5 年目を迎えた「生きもの育む田んぼプロジェクト」は、地域連携での共同活動、地域の魅力の発掘など地域づくりにも貢献し、地元の理解や支援に支えられてきました。これまでに数々の授賞も受け、社会的にも認められた活動として現在も継続しています。

田んぼは農業という経済的な側面だけではなく、稲作やマコモ文化、自然環境や景観の保全といった多面的な機能を有し、多様な価値を地域の人々に提供しています。私たちはこのような田んぼの多面的な価値に着目して活動し、人と人、人と生きものを結びつけた環境豊かな地域づくりに貢献しています。



【2】事業概要

NPO 法人かわごえ里山イニシアチブでは、次の様な事業を行っています。

- ① 田んぼ活動に関する調査研究事業
 - ・生きもの育む田んぼプロジェクト(環境にやさしい米づくり&マコモ栽培協力)
 - ・稲作に関するデータ収集及び分析
 - ・生きもの調査の実施
- ② 講習会・イベント開催事業
 - ・講習会・イベント・交流会
- ③ 情報収集及び情報発信事業
 - ・田んぼ活動先進地の情報収集
 - ・ホームページ及びメーリングリスト等による広報
 - ・チラシ及び冊子による活動の普及・啓蒙
- ④ 農業分野における IoT の利活用に関する事業
 - ・田んぼを見守る田んぼ IoT システムの開発、除草ロボット開発連携
- ⑤ 環境にやさしい農産物の頒布事業
 - ・お米・マコモ、及びその加工品などの販売と販売協力
- ⑥ その他目的を達成するために必要な事業
 - ・田んぼによる田園景観の保全活動、地域の魅力発掘、地域づくりなど
 - ・ビオトープ&花壇などによる癒しの空間作り



【3】主な活動実績

◆2020 年度は会員 62 名(正会員+賛助会員)で活動を行いました(2019 年度:74 名、2018 年度:70 名)。各事業における活動実績は次のとおりです。

① 田んぼ活動に関する調査研究事業

農家と非農家(消費者)が会費制で環境にやさしい米づくりに参加する『生きもの育む田んぼプロジェクト』を当会の主要事業と位置付けて活動しています。コロナ禍にあって田植えイベントは中止になりましたが、2020 年度も主な活動エリアである福田(4 反)と府川地区(4 反)＝計 8 反の田んぼで例年通り米作り活動を行いました。



また 2020 年度よりマコモ栽培技術とマコモ文化の伝承を目的として、新たに「いのち育むマコモ・オーナープロジェクト」もスタート。1 口(1 区画≒3.5 坪)10 株分のオーナーを募り、7 名の応募者が栽培人の指導のもとに栽培管理作業に汗を流し、マコモ葉飾りづくり等の文化伝承イベントに参加し学ばれました。

◆田んぼプロジェクト(お米)2020 ⇒PJ 参加者:30 名 (2019 年度実績:27 名、2018 年度実績:35 名)

<収量結果>

- 福田地区: 630Kg(2.6 俵/反)
※2019 年実績:1,227Kg/2018 年度:600Kg/2017 年度:1,110Kg
 - 府川地区: 900Kg(3.7 俵/反)
※2019 年実績:1,227Kg/2018 年実績:960Kg (府川は 2018 年～)
-
- 合 計 : 1,530Kg (平均反収 3.2 俵≒191Kg/反)

※2019 年度実績:2,277Kg (平均反収 4.9 俵≒300Kg/反)
2018 年度実績:1,560Kg (同 3.4 俵≒203Kg/反)

2020 年度は初期の生育こそ順調だったものの、その後の 2 ヶ月近くにも及んだ長梅雨の影響と、一部水管理の不備による抑草の失敗により、前年度の約 2/3 という大幅な収量減となりました。

◆マコモ・オーナープロジェクト 2020 ⇒初年度 PJ オーナー登録者:7 名 7 口(募集枠 60 口)

<実施結果>

- ・マコモはお茶等に使用される「葉」、それと秋口に花芽部分に寄生した黒穂菌の作用により発生する「マコモタケ」の 2 つが主な収穫物になります。
- ・栽培に関しては現在正確な収量記録を取っておりませんが、2020 年度は害虫による葉の食害の影響で品質の高いマコモ葉の確保が十分に出来ませんでした。また長梅雨と猛暑といった異常気象の影響からか、マコモタケの発生時期が例年より大きく遅れ、かつ収量本数も大幅減となりました。

・もう一つのテーマである“文化伝承”については、PJ 会員向けに 2 回のマコモ勉強会を開催した他、マコモ葉御座や注連縄づくりイベントを開催する等、コロナ禍にあってほぼ予定通りの活動を実施することが出来ました。



② 講習会・イベント開催事業

コロナ禍にあつて、当初 2020 年度に予定していた各種講習会やイベントは多くが中止になりましたが、一部規模縮小ながら開催したものもあります。

・6 月下旬には参加者を地域住民に限定し、田んぼのソムリエ・林鷹央氏を招き「田んぼの生きもの調査」を開催しました。

・11 月には、2020 年度の米つくりの振り返りと有機稲作の勉強会を実施。次年度の米つくりに向けて活発な意見が交わされました。

・またマコモの葉を使った文化伝承イベントも複数回実施。特に 12 月には、1000 年の歴史を持つ川越八幡宮のご協力を得て、「まこもで正月飾りづくり」を企画開催する事が出来ました(約 40 名参加)。

・年明け 1 月には、マコモ田んぼでの「ドンド焼きと焼きいも会」を実施。冬晴れの空の下、燃え盛る炎を見つめながら新型コロナの早期収束と五穀豊穡、そして里山にご縁する皆さんの健康安全を願いつつ、熱々の焼きイモを味わいました。



③ 情報収集及び情報発信事業

・環境省が主催し、環境と社会に貢献する活動を応援するプロジェクト「第 8 回グッドライフアワード」に、かわごえ里山が推進する“生きもの育む田んぼプロジェクト”の活動でエントリー。「環境と福祉賞」部門にて、実行委員会特別賞を受賞致しました。小さな 1 歩ですが、当会の推進する活動が全国に認知されるきっかけとなればと思います。

・2 月にはウエスタ川越で開催された「第 19 回かわごえ環境フォーラム」にて、藤岡理事よりこの 1 年の活動報告が発表されました。



④ 農業分野における情報通信技術(IoT)の利活用に関する事業

かわごえ里山では会員外メンバーを含めた「田んぼ IoT チーム里山」をこの指止まれ方式で募集し、田んぼの IoT に関する情報を広く収集・交換を行っています。

・2016 年からは東洋大学小瀬研究室と共同で稲の生育調査研究を行っていますが、小瀬研究室と IoT チームの中心メンバーである林伸夫氏が共同開発した、「田んぼを見守る田んぼカメラ 1 号機」は、昨年度老朽化によるシステム障害が続き実質的な運用が出来ませんでした。また現在 2 号機の製作も進めていますが、コロナ禍での自粛にてなかなか実地テストが行えない状況が続いています。

・今年 1 月には約 1 年ぶりにチームメンバーが会した「田んぼ IoT 懇談会」をオンラインで開催。上記田んぼカメラの現状課題と今後の進め方について議論が交わされた他、福島県在住の小瀬研究室の学生さんから「害獣除けのスマート化を考える」と題した、IoT 技術の害獣対策への応用の可能性についての発表なども行われました。

⑤ 環境にやさしい農産物の頒布事業

コロナ禍にあって、出店を予定していたマルシェイベントのほとんどは中止となりましたが、唯一 12 月にウエスタ川越で行われた「川越ファーマーズマーケット」に出店。同じく出店していた会員店舗とも協力しながらお米やマコモ茶の販売を行い、当会の活動も来場者にアピールすることが出来ました。



⑥ その他目的を達成するために必要な事業

かわごえ里山の活動は、お米やマコモづくりだけではない 田んぼの多様な機能や価値に着目して活動しています。この目的のために田んぼをフィールドにした多様な連携の輪を拡げ、地域の魅力発掘や地域づくりに貢献しています。

◆**大学連携:** 当会発足当初から各種の共同研究を進めている東洋大学小瀬研究室の他、十文字学園女子大学(新座市)とは災害食用マコモタケ入り α 化玄米の開発と市販化への試行を行っていましたが、コロナ禍の 2020 年度は試食調査等の機会が設けられず、具体的な進展を見ることが出来ませんでした。また日本薬科大学(伊奈町)では、2019 年度よりマコモ葉の成分分析研究が始まっていますが、こちらについては 3 月にはウエスタ川越にて「マコモ葉成分分析研究に関する中間発表会」を開催。マコモ成分の健康面での効用に対して、今後大きな期待が持てるお話を聞かせて頂く事が出来ました。

◆**農福連携:** 川越の障がい者就労支援施設(B 型)・ウォームサポートシオンと、マコモ茶の生産・販売面での本格的な連携を開始しました。今後は販売ルートの確保拡大が課題となります。



◆**地域連携:** 10 月には私たちの安全安心で美味しいお米と マコモ料理を、地域の方々に感謝の意を込めて味わっていただく「福田田んぼの収穫祭！」(地域に 感謝 DAY)を開催。秋晴れの空の下、地域の方々との親交を深めることが出来ました。



また昨年度の大きなトピックスとして、地域の複数の農業団体で構成される「山田田園環境保全推進グループ」に加入。加えて PC 作業等の技術支援員として 2 名の理事会員がスタッフとして参画しました。これにより本グループの活動に対して交付される「多面的機能支払交付金」も活用でき、当会としても地域とより一体的な環境・景観保全活動を進める事が出来る様になりました。

◆**ビオトープ&花壇整備(福田かるがもガーデン):**

会員有志によるワーキンググループを結成、里山田んぼに隣接した遊休地にビオトープ併設の花壇公園を計画整備して、この場所を「福田かるがもガーデン」と名付けました。3 月には今後の維持管理を担うボランティア希望者を集めたワークショップを開催。これからも地元住民にも愛される憩いの場として、四季折々の花々を植えて参ります。



◆2020 年度の主な活動実績まとめ（日常の農作業除く）

月日	曜日	活動内容	備考
4/4	土	福田地区掘りさらい、種籾温湯消毒	
4/19	日	稲種まき	
4/25-26	土日	田んぼ PJ 現地説明会	
5/3	日	ビオトープ花壇(かるがもガーデン)集中整備	プランター、パーゴラ設置
5/5-6	火水	ストロベリーキャンドルピクニック	
5/30	土	里山田んぼ田植え	公開イベントとしては中止
6/20	土	マコモ飾りづくり W.S@ウォームサポートシオン	
6/27	土	田んぼの生きもの調査	同上(地域行事として実施)
6/28	日	AM:かわごえ里山通常総会	
		PM:マコモ PJ 勉強会①～マコモ文化概要～	
8/1	土	マコモ御座づくり W.S@北部ふれあいセンター	
8/23	日	AM:マコモ勉強会②～マコモ栽培と注連縄～	
		PM:あまびえ案山子づくり W.S@里山古民家	
9/13	日	府川里山田んぼ稲刈り	手刈りイベントとしては中止
9/18-19	金土	福田里山田んぼ稲刈り	(コンバイン収穫のみ)
10/4	日	サイサン環境保全基金研修団見学 地域に感謝 Day(福田田んぼの収穫祭)	
10/14	水	マコモ田んぼとマコモタケ紹介番組@日テレ ZIP	ライブ中継
10/18	日	AM:赤城神社奉納用マコモしめ縄飾りづくり	
		PM:マコモ葉収穫と縄ない体験 @里山古民家	マコモ PJ 会員企画
10/25	日	マコモ田んぼ刈り取り	
11/19-20	金土	川越八幡宮奉納用マコモ大注連縄づくり @JUN ホール	
11/28	土	有機稲作勉強会 & 2020 年度米づくり振り返り会 @ウエスタ川越	参加者 16 名
12/5	土	環境省主催・第 8 回グットライフアワード実行委員会『特別賞』受賞	「環境と福祉賞」部門にて
12/6	日	AM:川越ファーマーズマーケット出店	
		PM:川越八幡宮でのマコモお正月飾りづくり	
12/26	土	秩父サイエンスアカデミーでの里山活動発表	発表者:増田代表
12/28	月	川越八幡宮へのマコモ大注連縄飾り奉納	
'21/1/10	日	ドンド焼きと焼き芋会@マコモ田んぼ	
1/23	土	田んぼIoTグループ懇談会(オンライン)	
2/27	土	かわごえ環境フォーラムでの活動発表 @ウエスタ川越	発表者:藤岡理事
3/7	日	第 1 回かるがもガーデンボランティア W.S @里山古民家(講座)&かるがもガーデン(実習)	
3/20	土	日本薬科大:マコモ成分分析研究中間報告会 @ウエスタ川越	

【4】2020 年度の受取助成金関連

◆2020 年度助成金計＝626,382 円

- コメリ緑資金 150,000 円 (主な使途:ビオトープ & 花壇整備)
- サイサン環境保全基金 350,051 円
(主な使途:農業資材費 7 万円、除草機等 4 万円、バーゴラ 5 万円、会場費 2 万円、講師費 7 万円、報告書 3 万円、冊子・チラシ作成 7 万円)
- 武州・入間川プロジェクト 140,000 円 → 査定後 126,331 円に減額
(主な使途:ビオトープ & 花壇整備 5 万円、冊子・チラシ作成 3 万円、生きもの調査・講演会費 6 万円)

【5】活動の成果と課題

一昨年度(2019 年度)に掲げた 2020 年度の展望課題として、下記 5 つの項目を取り上げておりました。

- ①【○】農福連携 ⇒ ウォームサポートシオンとのマコモ茶生産販売の連携開始。
- ②【○】ビオトープ花壇公園整備 ⇒ コメリ等助成金を活用し「福田かるがもガーデン」を整備。
- ③【×】チーム運営が出来る組織体制づくり ⇒ 進展なくほぼ未着手
- ④【○】拠点の確保 ⇒ 田んぼ近くの空家(納屋)を借り上げ、8 月から活動拠点として運用開始。
- ⑤【○】山田田園環境推進グループとの連携強化 ⇒ 里山から 2 名の理事会員が本グループに参加、地域振興や景観保全に関する取り組みを一体的に進めていく体制が整う。

各々細かな反省点は諸々ありますが、③以外は概ね進展有、具体的な実績もあり一歩前に進めたのではないかと考えております。 半面③については組織上最も重要な点でありながらも、運営人材の不足もあって体制強化に着手する事が出来ませんでした。 この点は次年度に向けた大きな反省点になろうかと思えます。 また今年度に入りマコモ葉和蠟燭やハチミツといった、新しい商品が生まれようとしていますが、今後はこれらの販路や販売体制も含めたより一段上の組織運営体制の構築が求められようかと考えております。

以上

2020年度 事業報告書（案）

特定非営利活動法人 かわごえ里山イニシアチブ

1 事業の成果

「生きもの育む田んぼプロジェクト」は、2020年度で5年目を迎えこれまで数々の授賞を受け、社会的に認められた活動として継続しています。

また、活動は地域連携での共同活動、地域の魅力の発掘などで地域づくりに貢献し、地元の理解や支援に支えられた継続的な活動となっています。

田んぼや田んぼをフィールドにした活動は、田んぼがお米づくりだけではない多様な価値を提供しており、稲作文化やマコモ文化、自然の環境保全や景観といった多面的な機能を有し、経済的な側面では測ることのできない価値を提供しています。かわごえ里山イニシアチブはこのような田んぼの多面的機能に着目して活動し、人と人、人と生きものを結びつけ、環境豊かな地域づくりに貢献しています。

2 事業の実施に関する事項（2020年4月1日～2021年3月31日）

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従 事 者 の 人 数	受益対象者 の範囲/人数	支出額 (千円)
田んぼ活動に関する調査研究事業	・環境にやさしい米づくり ・マコモオーナー制度 ・稲作に関するデータ収集 ・生きもの調査の実施	・週2回 ・毎日 ・1回	C0江戸かわごえ初雁の里	15名	川越市&周辺都市住民 150名	969
講習会・イベント開催事業	講習会・イベント・交流会	・隔月	・田んぼ、公民館等	15名	川越市&周辺都市住民 100名	108
情報収集及び情報発信事業	・ホームページ及びSNS等の運営 ・チラシ及び冊子作製	逐次	・インターネット上 ・その他	15名	全ての市民 1000名	92
農業分野における情報通信技術の活用に関する事業	・田んぼを見守る田んぼIoTシステムなどの開発	通年	C0江戸かわごえ初雁の里	5名	全ての市民 20名	12
環境にやさしい農産物の頒布事業	環境にやさしい農産物の頒布	逐次	C0江戸かわごえ初雁の里	15名	全ての市民 100名	93
その他目的を達成するために必要な事業	・ビオトープ&花壇整備 ・田んぼの景観づくり ・拠点整備（農業体験エコツアール等） ・大学、農福、地域連携	逐次	C0江戸かわごえ初雁の里	15名	全ての市民 50名	566

2020年度 かわごえ里山イニシアチブ 活動計算書(案)

2020年 4月 1日 ~ 2021年 3月 31日 まで

(単位:円)

科 目		金 額	
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	135,000		
賛助会員受取会費	2,000	137,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	89,050		
施設等受入評価益		89,050	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	476,382		
受取公的補助金	0	476,382	
4. 事業収益			
参加費	88,600		
田んぼPJ事業等	1,218,338		
	0	1,306,938	
公的受託事業	0		
受取利息	5		
雑収益	81,867	81,872	
経常収益計(A)			2,091,242
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給与手当	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
福利厚生費	0		
印刷製本費	113,817		
水道光熱費	64,525		
諸謝金	112,000		
旅費交通費	14,032		
消耗品費	34,103		
施設利用料	220,000		
通信運搬費	46,227		
雑費	221,674		
保険料	4,760		
車両費	2,000		
支払手数料	220		
修繕費	111,611		
業務委託費	414,790		
物品販売原価	36,500		
農業資材費	303,722		
食材費	9,973		
その他経費計	1,709,954		
事業費計		1,709,954	
2. 管理費			
(1)人件費			
給与手当	0		
法定福利費	0		
人件費計	0	0	
(2)その他経費			
諸会費	82,665		
租税公課	0		
会議費	0		
印刷製本費	0		
賃借料	47,710		
その他経費計	130,375		
管理費計		130,375	
経常費用計(B)			1,840,329
① 当期正味財産増減額(A-B)			250,913
② 前期繰越正味財産額			1,722,519
次期繰越正味財産額(①+②)			1,973,432

議案第2号		2020年度活動計算書内訳一覧表(2020/4/1~2021/3/31)						
合計 / 金額	列ラベル							
行ラベル	その他目的 達成	環境にやさし い農産物頒布	講習会・イ ベント開催	情報収集及 び情報発信	田んぼ活動 調査研究	農業分野の 情報通信技 術利活用	(空白)	総計
収益	609832	660856	129749		553800		137005	2091242
受取利息							5	5
参加費			75600		13000			88600
正会員受取会費							135000	135000
受取寄付金	89050							89050
受取民間助成金	476382							476382
田んぼPJ事業	30000	626038	32300		530000			1218338
賛助会員受取会費							2000	2000
雑収益	14400	34818	21849		10800			81867
費用	565967	92718	108694	92241	968644	12065		1840329
印刷製本費	15730			86037	12050			113817
賃借料	20670	3000	22250	790	1000			47710
水道光熱費	20525				44000			64525
諸会費	10665				72000			82665
諸謝金	2000		50000		60000			112000
旅費交通費	12232		1300	500				14032
消耗品費	12834	5170	2741		13358			34103
地代家賃	100000				120000			220000
通信運搬費	11390	18932		4400	440	11065		46227
雑費	134698	37896	20500		27580	1000		221674
保険料	4760							4760
車両費	2000							2000
支払手数料		220						220
修繕費	16960				94651			111611
業務委託費	4400				410390			414790
物品販売原価		27500	9000					36500
農業資材費	190974				112748			303722
食材費	6129		2903	514	427			9973

2020 年度 監査資料

2021.6.9

通帳&現金	金額	備 考
PayPay銀行 ジャパンネット銀行	17,100	4/29残：¥63,100
旧ゆうちょ銀行残	900,014	古民家利用料を管理～2021/3/31
新ゆうちょ銀行実質残	1,051,617	通帳残1,080,775-立替分未精算分29,158
現金	4,701	
通帳 + 現金残	1,973,432	

NPO法人 かわごえ里山イニシアチブ


監査結果報告書

2020年度 NPO法人 かわごえ里山イニシアチブの事業にともなう
決算及び会計帳簿等の監査を行った結果、適正に執行されているこ
とを報告いたします。事業についても適正に行われていることを報
告いたします。

2021年6月 9日

NPO法人 かわごえ里山イニシアチブ

監事 佐藤小百合 

監事 七星雄史郎 

役員改選

- ・辞任：佐藤小百合監査役員
- ・新任理事：塔筋真一会員

2021年度の役員（案）は次のとおり

役名	フリガナ
理事	増田 純一
理事	高梨 耕治
理事	小瀬 博之
理事	内田 聖美
理事	七星 喜代恵
理事	小林 順吉
理事	谷道 輝夫
理事	藤岡 重歳
理事	増田 知久
理事	塔筋 真一
監事	七星 雄史郎

2021年度事業計画

特定非営利活動法人 かわごえ里山イニシアチブ

1 事業実施の方針

2021年度も引き続き「生きもの育む田んぼプロジェクト」を継続していきます。

地域の魅力の発掘など地域づくりに貢献し、地元の理解や支援が得られるように活動を継続し、特に、山田田園環境保全グループとの連携を深め地域密着型の活動を行っていきます。

田んぼはお米づくりだけではなく多様な価値を提供しており、稲作文化やマコモ文化、自然の環境保全や景観といった多面的な機能を有し、経済的な側面から測ることのできない価値を提供しています。かわごえ里山イニシアチブはこのような田んぼの多面的機能に着目して活動し、人と人、人と生きものを結びつけ、豊かな地域づくりに貢献していきます。

特に、マコモ葉の6次産業化で活動資金の安定化を目指します。

2 事業の実施に関する事項（2021年4月1日～ 2022年3月31日）

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事 者の 予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支出見 込額 (千円)
①田んぼ活動に関する調査研究事業	・環境にやさしい米づくり ・マコモオーナー制度 ・稲作に関するデータ収集及び分析 ・生きもの調査の実施	・週2回 ・毎日 ・年2回	C0江戸かわごえ初雁の里	15名	川越市民及び周辺都市住民 300名	1,000
② 講習会・イベント開催事業	講習会・イベント・交流会	年3回以上	C0江戸かわごえ初雁の里田んぼ、公民館等	15名	川越市民及び周辺都市住民 200名	200
③情報収集及び情報発信事業	・田んぼ活動先進地の情報収集 ・ホームページ及びメーリングリスト等の運営 ・チラシ及び冊子の製作及び配布	逐次	・田んぼ活動先進地 ・インターネット上 ・その他	15名	全ての市民 1000名	150
④農業分野における情報通信技術の利活用に関する事業	・農業分野における情報通信技術の利活用の研究及び試行	通年	C0江戸かわごえ初雁の里	5名	全ての市民 100名	150
⑤環境にやさしい農産物の頒布事業	環境にやさしい農産物の頒布	逐次	C0江戸かわごえ初雁の里	15名	全ての市民 100名	100
⑥その他目的を達成するために必要な事業	・ビオトープ&花壇整備 ・田んぼの景観づくり ・大学連携・農福連携 ・山田田園環境保全推進GPとの連携	逐次	C0江戸かわごえ初雁の里	15名	全ての市民 200名	535

<2021年度活動について>

◇かわごえ里山ではNPO法人の6つの定款事業を基本に活動しているところです。

田んぼプロジェクトとして、お米プロジェクトやマコモオーナープロジェクト(制度)を核に事業展開しているところですが、この他、いくつかの課外活動があります。

2021年度はこれまでの課外活動に加え、養蜂という新たな分野が加わり、現在、田んぼIoT部、畑部、ホテル部、養蜂部と農作業の合間を縫って会員の興味のある分野で楽しみながら活動し、環境保全や田園風景の保全につながる活動を行っています。

また、今後会員企画や他団体と連携して、かわごえ里山の目的に合致しているものは積極的に取り入れて実施していきたいので積極的な提案を期待します。

【今後の課題と展望】

- ① 経済的基盤の強化:生産物の6次産業化と販路の確立をして助成金中心の経済的体質から脱却する必要があります。また、お米の生産も生産コストと販売コストがほぼ同等か逆転しています。今年度から、6次産業化による製品開発と販路の確立を目指します。

具体的には、マコモ製品の拡大があり、農福連携のマコモ茶生産に続き、HAZE様協力の「川越産マコモ入り和蠟燭」の製品試作が実現しており、販路が確立できれば本格生産に入ることができます。

日本薬科大学との連携製品として「マコモ入りウェットティッシュ」製品が試作の段階に来ており実現の一手手前まで来ています。

- ② 農福連携:高齢者や障がい者が共生できる社会の実現に向けた農福連携として、かわごえ里山が緩やかな連携で、可能な範囲の活動を模索していきます。2020年度は、試行として障がい者就労支援施設と連携し、マコモ茶づくりに協力し、原材料の提供からマコモ茶の販売までを行ってきましたが、今後は販路の確立と拡大が課題となってきます。
- ③ ビオトープ&花壇:かわごえ里山と地域住民が連携した運用方法を検討します。
- ④ 組織体制づくり:かわごえ里山は市民団体として設立してから丸6年が経過し、NPO法人となり、活動が活発化するにつけ組織運営の円滑化が課題となっています。今後役割分担をしながら、無理のない柔軟な運営方法を検討していきます。
- ⑤ 活動拠点としての古民家などの運営:農作業の休憩所、ミーティング可能な事務所、農機具置き場、会員間・地元民間との交流空間、農産物の臨時販売所など田んぼに隣接するマルチ機能を持つ交流拠点が長年の課題でしたが、2020年度実現することができました。

しかし、拠点(現在、高梨農園農作業小屋と古民家2拠点の計3か所)を維持するのにそれなりの維持運用経費がかかっており、今後、継続的な維持をしていくために、みんなの共有財産として管理や運営方法を検討します。

具体的には、7月10日(土)に古民家を活用して日本薬科大学学生による農業体験を実施します。この際、大学から施設管理費等を徴収します。

また、今後、かわごえ里山のコンセプトに見合う会員企画イベントについては、できるだけ多く開催して、労力的な負担軽減を図りながら維持運用費の確保を図っていきたい。

- ⑥ 地域グループとの連携: 持続的な活動展開が課題となることから、地元農村グループと連携をして共同展開をしていくことが肝要です。このため、今年度も地元の複数の農業団体で構成する「山田田園環境保全推進グループ」に加入し連携を深めて活動していきます。

⑦ 大学との連携(共同研究)

日本薬科大学: マコモの成分分析研究でその薬学的メカニズムに関する研究を行っています。この研究をベースにして、今後、「マコモ茶の製品開発」や「マコモ入りウェットティッシュ」などの大学連携製品を共同開発していく予定です。

東洋大学 小瀬研究室: 稲の生育調査や田んぼのIoT研究として引き続き連携していきたい。今後、卒論として「稲の生育調査や田んぼのIoT研究」をテーマにしたゼミ学生が現れた場合は、全面的に連携して協力していきたい。

十文字学園女子大学: 引き続き α 化玄米の商品開発やマコモタケ(黒穂菌)の免疫機能についての研究協力体制の検討を行う。

⑧ 田んぼのIoTシステム研究

稲の生育調査や田んぼのIoT研究として、2016年から東洋大学小瀬研究室との共同研究を行っています。

チーム員の「日経パソコン」や「日経Mac」などの編集長を歴任した林伸夫氏が共同開発した「田んぼを見守る田んぼカメラ1号機」は設置から4年目に老朽化により故障した。

現在、田んぼの水位なども計測できる各種センサーを搭載した「田んぼを見守るIoTシステム」2号機を開発してもらっているので出来るだけ早い機会に設置をしたい。

現在は、完全ボランティアで研究開発を行ってもらっているので、せめて開発実験にかかわる経費を助成金などで獲得したい。

⑨ 会員企画によるイベント開催の連携

会員企画でかわごえ里山の目的に沿う企画については、今後、共催や協力をして連携していきたい。

具体的なものとして、8月25日開催予定の「いただきます ここは発酵の楽園」の上映企画で Healthy and happy children(「健幸」な子ども達を育てたい)との共催で上映会を開催する。

報告事項		2021年度かわごえ里山イニシアチブ活動予算書	
		2021年 4月 1日 ~ 2022年 3月 31日 まで (単位:円)	
科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	150,000		
賛助会員受取会費	2,000	152,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	300,000		
施設等受入評価益		300,000	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	440,000		
受取公的助成金	0	440,000	
4. 事業収益			
田んぼ活動に関する調査研究事業	550,000		
講習会・イベント開催事業	100,000		
情報収集及び情報発信事業	0		
農業分野における情報通信技術の利活用に関する事業	0		
環境にやさしい農産物の頒布事業	700,000		
その他目的を達成するために必要な事業	100,000	1,450,000	
5. その他収益			
受取利息	5		
雑収益		5	
経常収益計			2,342,005
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給与手当	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
福利厚生費	0		
印刷製本費	100,000		
水道光熱費	65,000		
諸謝金	150,000		
旅費交通費	100,000		
消耗品費	50,000		
施設利用料	240,000		
通信運搬費	50,000		
雑費	200,000		
保険料	5,000		
車両費	10,000		
支払手数料	10,000		
修繕費	200,000		
業務委託費	400,000		
物品販売原価	300,000		
研修費	20,000		
農業資材費	300,000		
食材費	10,000		
その他経費計	2,210,000		
事業費計		2,210,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給与手当	0		
法定福利費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
諸会費	50,000		
租税公課	0		
印刷製本費	10,000		
賃借料	50,000		
その他経費計	110,000		
管理費計		110,000	
経常費用計			2,320,000